

## 更年期障害の症状　まず加味逍遙散を

**Q** 四十九歳、女性。数年前から生理不順となり、同時に肩こり、のぼせ、手足のほてりなどで悩まされ、婦人科で更年期障害との診断を受けました。女性ホルモン補充療法を受け、シミ・肌荒れなど症状の一部は改善しましたが、精神的な症状や胃腸障害、不正出血は頻繁に起こります。またこの療法を続けていると将来、がんになる可能性があるかと聞いて心配です。

**A** 更年期障害の諸症状は女性ホルモンであるエストロゲンとプロゲステロンの減少やバランスのくずれによって起こるとされる。症状は人によって実に多種多様である。

最近注目されているホルモン補充療法は、一般にのぼせ、どうき、皮膚の潤い、性交痛など

には有効な反面、不眠、抑うつ、肩こり、物忘れ傾向などには効果が薄いとされる。ホルモン補充療法の長短をよく知って、漢方薬を主とするか、漢方薬とホルモン剤の上手な併用をお勧めしたい。

最もよく使われる漢方薬は加味逍遙散（かみしょうようさん）である。不眠、イライラ、肩こりなど中枢神経系の興奮を抑え、筋肉の緊張をほぐす。質問者のように特に手足の不快感ほてりを訴える場合には三物黄芩湯（さんもつおうごんとう）を併用するとよい。物忘れや骨粗しょう症、動脈硬化の予防に対しては当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）が注目されている。

なお現在のホルモン補充療法は子宮体がんの発生率に影響しないとされる。